

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

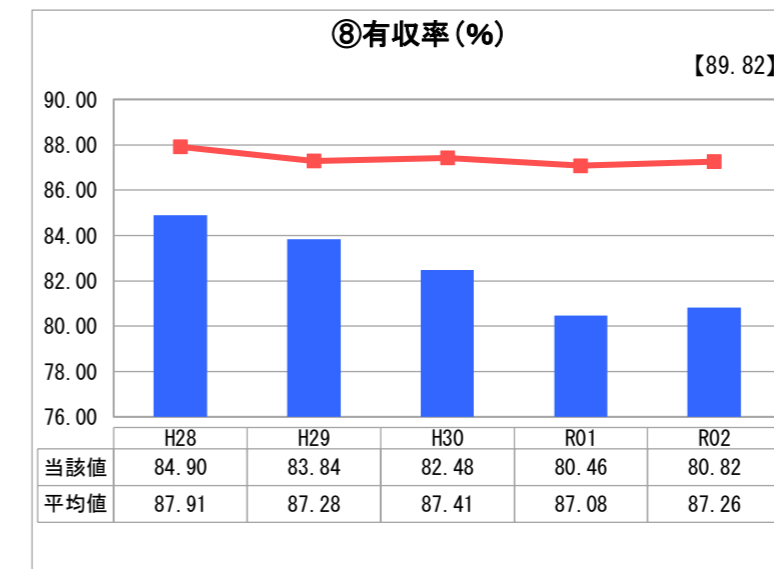
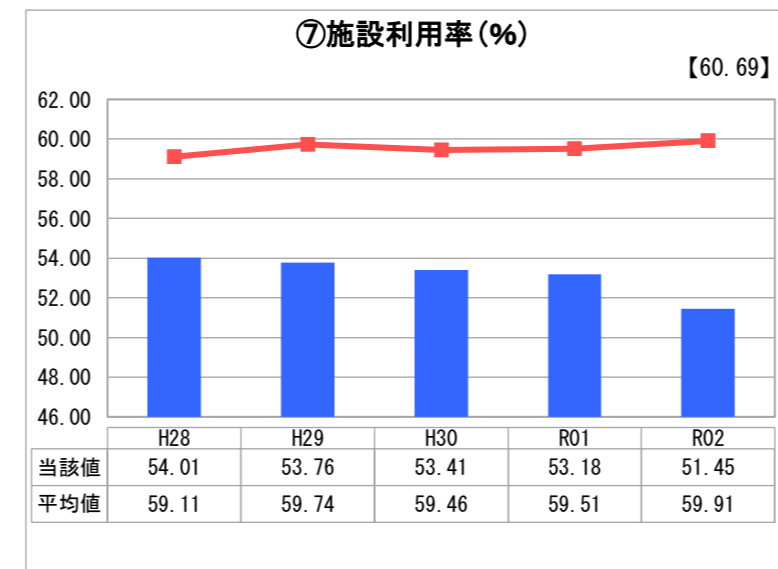
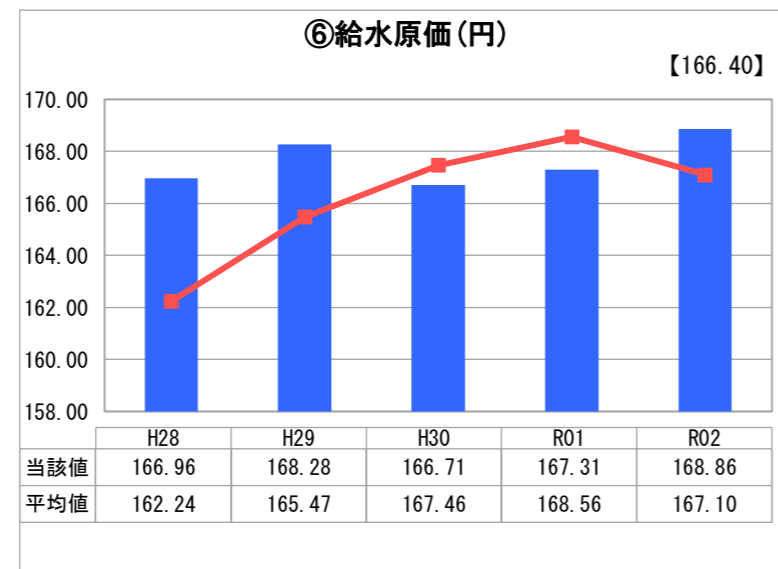
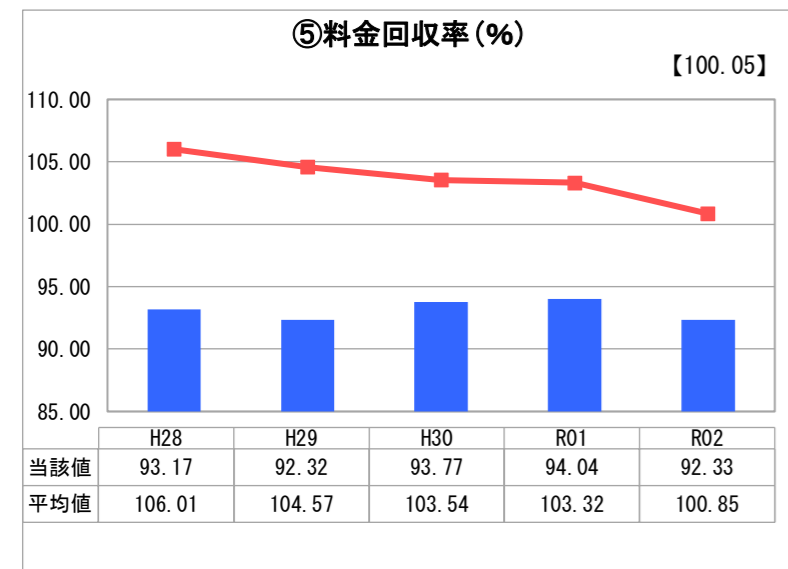
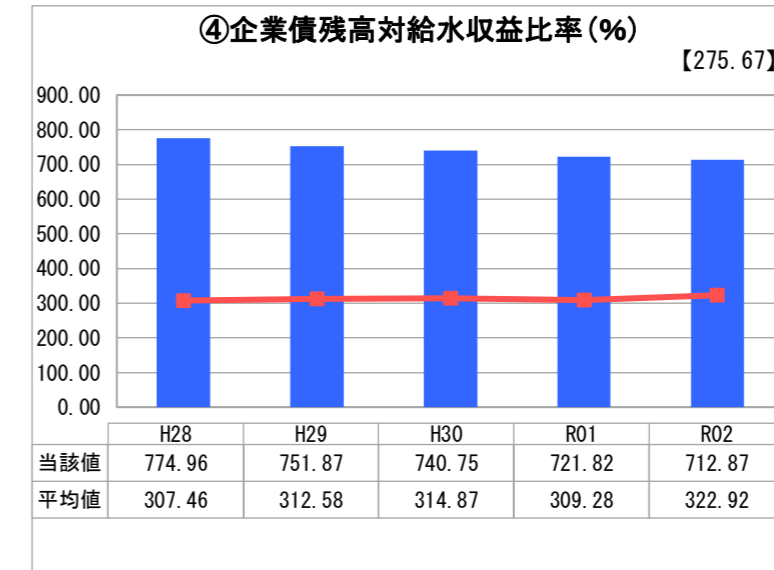
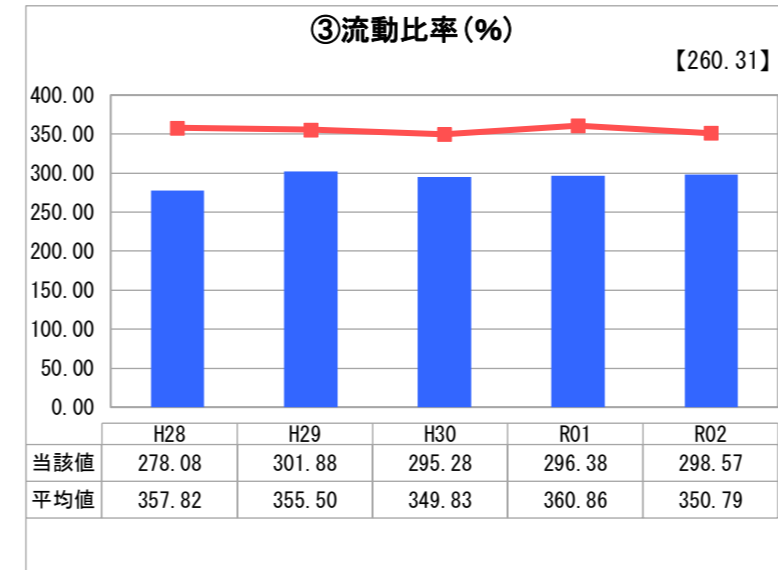
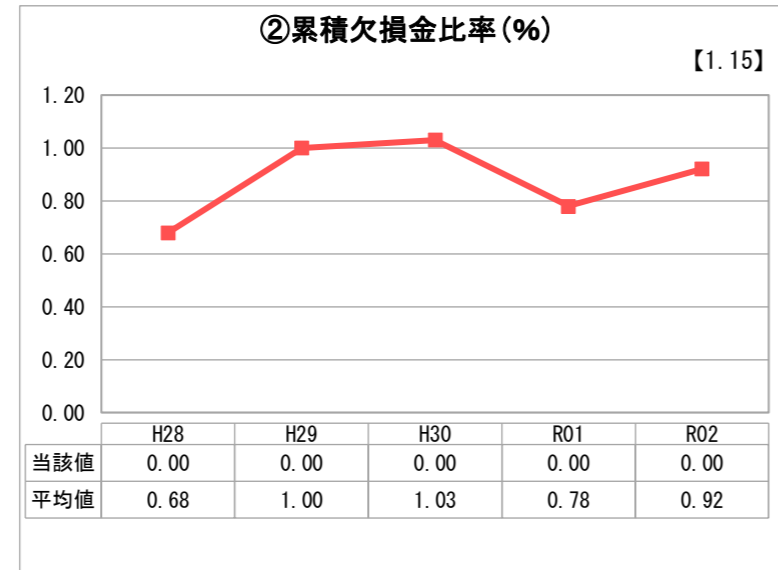
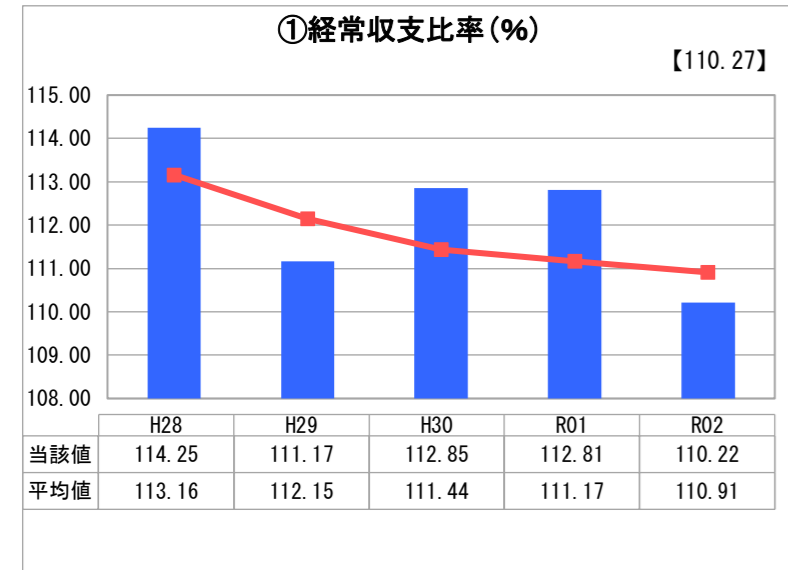
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	58.16	99.97	2,684	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
79,897	697.55	114.54
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
79,422	171.75	462.43

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

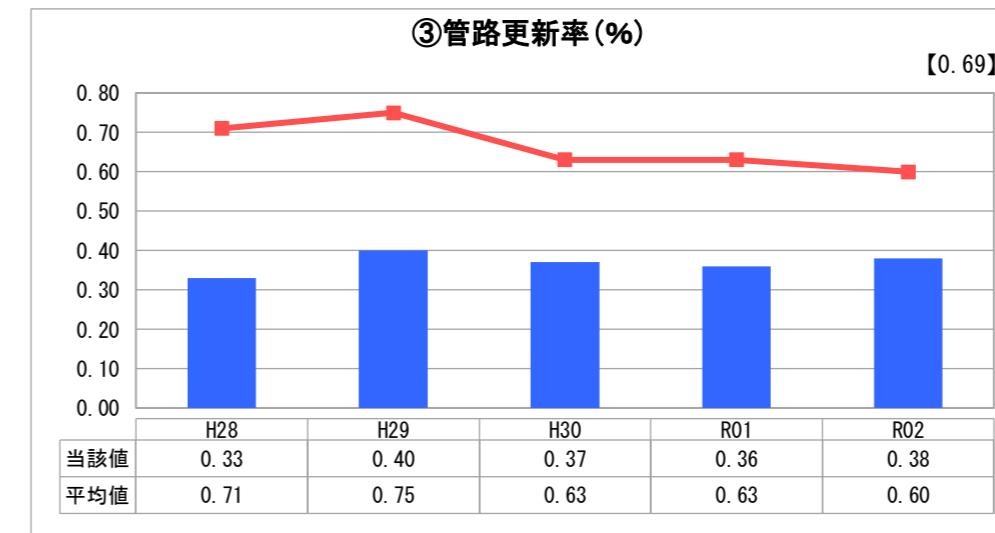
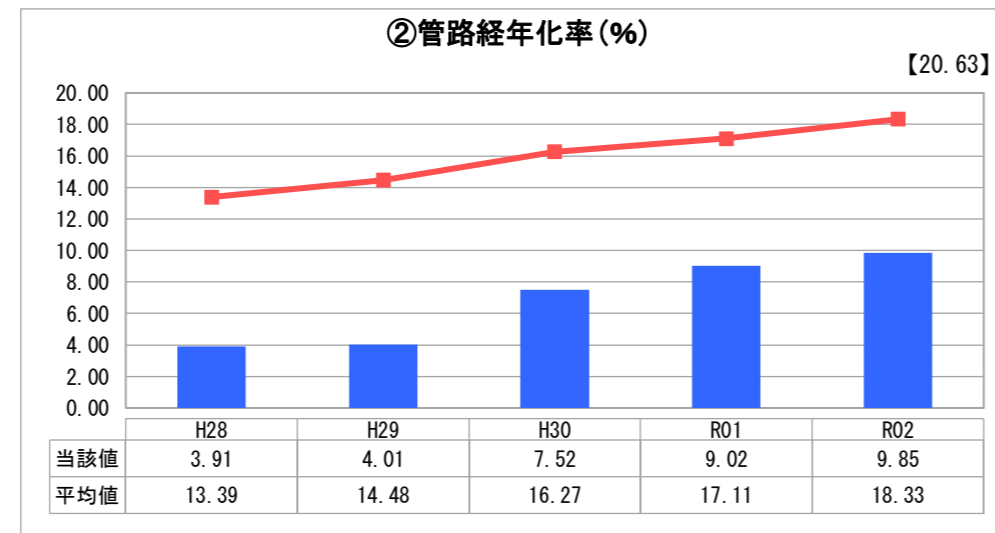
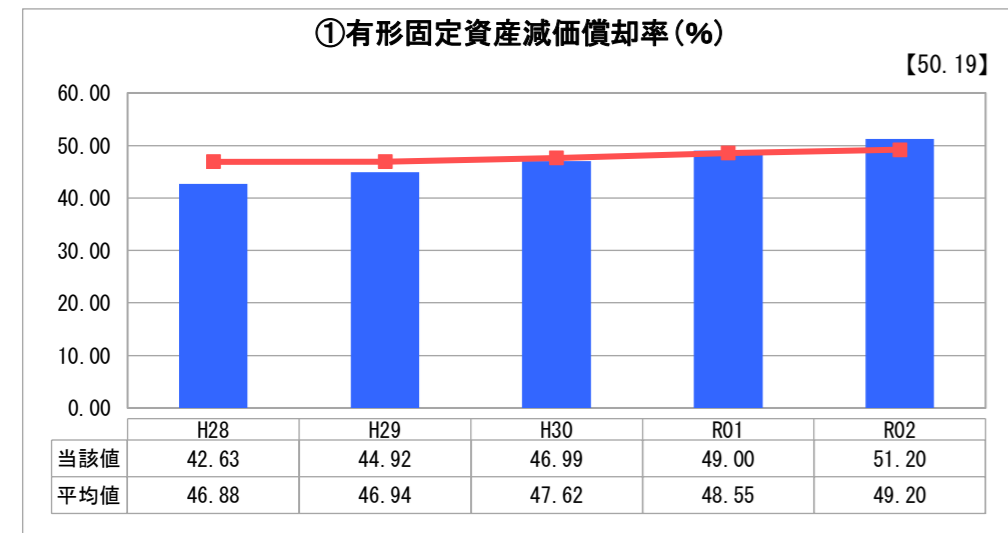
### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は類似団体平均をやや下回ったが、100%を超えており、良好な状況である。  
 ② 累積欠損金比率は、累積欠損金は発生しておらず問題ない。  
 ③ 流動比率は類似団体平均を下回っているが、300%近くあり、問題ない。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、これまでの施設整備のために多額の企業債を発行してきたため、類似団体平均の約2.2倍と高い水準にある。本市はこの比率を減少させていくことを中長期的な課題としており、少しずつではあるが減少させている。  
 ⑤ 料金回収率は類似団体平均を下回っている。総務省の繰上基準の考え方をベースにした繰入金が類似団体よりも多いことが原因であると考えている。  
 ⑥ 給水原価は類似団体平均をやや上回った。経営の効率化により改善を図っていききたい。  
 ⑦ 施設利用率は水需要の減少から低下傾向にある。施設の統廃合や適切な規模への更新を計画的に進め、利用率を改善させていく必要がある。  
 ⑧ 有収率は類似団体平均を下回っている。昨年度よりわずかに向上したが、近年は悪化傾向にある。施設の老朽化等を原因とした漏水が原因と考えられる。漏水調査等を進め、改善させる必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は年々上昇傾向にあり、保有資産の老朽化が進んでいることを示している。将来多額の更新費用が必要になると見込まれるため、適切な整備計画に基づく更新が必要である。  
 ② 管路経年率は類似団体平均を大きく下回っているが上昇傾向にある。一方、③ 管路更新率は類似団体平均を下回っている。本市は面積が広く、管路延長も長いうえ、近年は経過年数よりも漏水事故頻発箇所を重点的に更新していることも要因だが、状況を把握して計画的に老朽管を更新していく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

令和2年度は令和元年度に比べ、経常収支比率、料金回収率、給水原価等が悪化している。主な原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により有収水量が減少したためと考えている。  
 本市水道事業の経営は、給水人口の減少等に伴う水需要の減少、老朽化に伴う大規模な施設更新の必要、多額の企業債の返済等、将来に多くの課題を抱えており、今後の経営状況は徐々に悪化していくものと考えている。  
 今後は、安全・安心な水道を確保しつつ、将来を見据えた適切な規模の施設や管路の更新を進め、漏水事故を減少させること等により、施設維持管理費用の削減、施設利用率の向上、有収率の向上を図り、さらなる経営の健全化に努めていきたい。